

核のゴミと福井の未来を考えよう!

使用済み核燃料(高レベル放射性廃棄物)

「敷地内乾式貯蔵」問題



— 万年先、いや千年先、いや50年先の

子孫のなげきを想いつつ、冷静にそして誠実に議論しよう —

八方ふさがりの「核のゴミ政策」 「展望はなく場当たりの」

54年前、次のような警鐘が鳴らされていました

原電 疑問だらけ

読売新聞（県版）1971年6月30日

原子炉の耐用年数は平均十五年—二十年といわれる。耐用年数の過ぎた原子炉はもちろん、運転休止にするが、取りこわすには放射能が飛び散るので、そのままの状態にしておくというのが学界や電力会社の方針。なに分、世界でだれも知らない未知のことだらけに「福井県の美しい海岸線は原電の墓場がずらりと並ぶのでは……」といった不安が出るのも当然。県臨海開発課にも、将来の展望はなく場当たりので「どうにかなるだろう」とたよりない状態。

原子炉から出る廃棄物の処理もどうするかの見当もついていない。科学技術庁は、東海村実験炉

「福井の美しい海岸線は原電の墓場がずらりと並ぶのでは…」

「原子炉から出る廃棄物の処理も、どうするかの見当もついていない」

「将来の展望はなく場当たりの」

たまり続ける 使用済み核燃料（高レベル放射性廃棄物）

まず事実を見つめよう！

なぜ、関西電力は、使用済み核燃料を原発敷地内で「乾式貯蔵」したがつているの？



関電が「敷地内乾式貯蔵」を急ぐ理由は、



使用済み核燃料を保管する原発プールが3年後（2028年）には満杯になる。そうなると燃料交換ができず、原発の運転もできなくなるからよ。



でも、関電は、「青森

県六ヶ所村の再処理工場が2026年に稼働し、その後は使用済み核燃料を青森へ移送する」から「原発敷地内での乾式貯蔵はあくまでも一時的」と言っているわ。

県も「2026年に再処理を必ず操業させると国が言っているので、若狭からの搬出計画も滞りなく進むと思う」と他人ごとのように構えているわね。



でも、国が言うのだったら安心ね。「若狭が核のゴミの墓場になる」と大げさに騒ぐ人たちもいるけど、心配しすぎじゃないの？



ただ、若狭からの搬出計画は、あくまでも再処理工場や中間貯蔵施設の稼働を前提とした、仮定に仮定を重ねた話にすぎないのよ。

えっ、知らなかったわ。普通の企業ならとっくに中止・撤退しているところよね。これまでにどれくらいのお金がつぎ込まれてきたの？



でも、国や国策企業が動かすと言っているんだから、私たち国民は信用するしかないんじゃない？ なぜ「仮定」だと言い切れるの？



なぜなら、再処理工場は、1993年に着工し1997年に完成するはずだった。それが27回（年）も延期を繰り返して、32年経った今も完成していないのよ。



えっ、知らなかったわ。普通の企業ならとっくに中止・撤退しているところよね。これまでにどれくらいのお金がつぎ込まれてきたの？



えっ、知らなかったわ。普通の企業ならとっくに中止・撤退しているところよね。これまでにどれくらいのお金がつぎ込まれてきたの？

1979年の構想では、

建設費と40年間の操業費を含む総事業費を11兆円



と見込んでいたけど、2025年には、22兆円を超え、工場が動き出せばコストはさらに増大する見込みよ。これらのコストはすべて国民負担なのよ。



ところで、「再処理工場」というのは、使用済み核燃料を無害化する工場のことなの？

かつて、みちのく銀行の頭取が「青森県はリスクな施設を押し付けられた」と憤慨していたけど…。

使用済み核燃料の再

処理で、原爆材料プル

トニウムと高レベル放

射性廃液（ガラス固化体にする）が



生み出されるのよ。より厄介なゴミに置き変わるだけね。

受け入れ先のない ガラス固化体

青森県は30年前、英仏から返還のガラス固化体2140本を30～50年の暫定保管で受け入れた。

国は「青森県内を最終処分地にしない」と約束したが、30年後の今も行き先はない。

一時のお金目当てに北海道の寿都町と神恵内村が文献調査を受け入れたが、北海道には核のゴミを持ち込ませぬ道条例があり、道知事は概要調査へ進むことにも反対している。

長崎県対馬市では、昨年3月、市を二分する選挙の結果、ガラス固化体の受け入れ（概要調査）を拒否した市長（自民党）が三選されている。

国は、使用済み核燃

料を再処理し、まだ使

えるウランとプルトニ

ウムを取り出し、原発で繰り返し使

う「核燃料サイクル」を進めようと

しているんだけど、このガラス固化

体の最終処分場がいまだに見つから

ないことも大きな足かせになるわ。

だって、仮に再処理工場をフル稼働

させると、行き先のないガラス固化

体が、年に約1千本もできてしま

まうのよ。



30年前に英仏から返還されたガラス固化体を受け入れる自治体が見つからないのに、

新たに1千本も生み出してしまっ

て。国の未来を危うくする大問題

ね。いったい政治家は何をしているの



再処理工場の操業率は10%程度！ 若狭の使用済み核燃料の県外搬出はできない！



廃止措置になった東海
村の再処理工場では、故
障続きで高レベル放射性廃液のガラ
ス固化がうまくできず、廃液を入れ
たステンレス貯槽の老朽化が進んで
いるそうね…。

高レベル廃液は崩壊
熱を持ち、腐食性があ
るのよ。



東海村にはその「高レベル廃液」
が336m³も貯蔵されているのよ。
これは広島原爆数万発分の放射能が
含まれ、セル内に入ったら数十秒で
死亡してしまうわ。

六ヶ所再処理工場にも、2006
年から3年間の試験運転で発生した
廃液が211m³が残っているのよ。



再処理の第一の目的は
プルトニウムを取り出す
ことなんですよ。平和国家をめざす
被爆国の日本が原爆材料を持つのは
まずいんじゃないの？

すでに日本は、その原
爆材料プルトニウムを
44・4t（2024
年末）も持っているのよ。



だから、国の原子力委員会は「余
剰プルトニウムを持たない」国際公
約を実現するため「プルサーマルの
着実な実施に必要な量だけ再処理が
実施されるよう認可する」方針なの
よ。（我が国におけるプルトニウム利用に
関する基本的な考え方 2018・7・31）



でも、4年前の自民党総
裁選で岸田さんは「核燃
サイクル（プルトニウムリサイクル）
を止めると、プルトニウムが増える」
「核燃サイクルによって除去される
高レベル核廃棄物がそのままになる」
「だから（再処理も）やめられない」
と演説していたわ。あれって、論理
が逆さまなのね。この国の政治家の
頭の中はいったいどうなっているん
だか。

総理候補ともあろう
人が核燃サイクル（プ
ルトニウムリサイクル）の破綻に気
づいていないんだから、まさに「亡
国」の極みだよな。



ともあれ一余剰プルトニウムを持たない」という国際公約に制約されているため、プルサーマルでプルトニウムを燃やせた分だけしか再処理して取り出せないのよ。



再処理工場をフル操業すると、年約6・6トのプルトニウムが回収されるそうね。



でも、これまでに4基の原発で燃やせたプルトニウムは15年間に5・73ト、年平均0・382トにすぎないのよ。



今後、この4基で定期点検以外に長期停止せず燃やせたとしても年平均0・692トだけ。つまり、この量は再処理工場

を一年操業すると生じるプルトニウムの10%程度なのよ。



なるほど、たとえば再処理工場を操業できても、操業率を年10%程度に制限せざるを得ないということね。

操業率10%では、今後40年間(再処理工場の寿命)で、現在、六ヶ所村のプールにある使用済み核燃料を再処理するのがやっとよ。つまり、若狭の原発プールにある使用済み核燃料を搬出することなんてできないのよ。



このことを県議や知事さんたちは知っているのかしら？



私たちは、県の原子力安全対策課との交渉で、操業率10%の問題を議論したけど、原安課の技術職員は反論すらしなかったわ。県議会への陳情書にもその問題は何度も書いているわよ。

県議会では、「電気事業連合会は、2030年までに12基の原発でプルサーマルを進める方針」だと、電力会社の仮定の方針に盲従するかのような答弁をしているわね。12基の原発でプルサーマルを進めることなんて、現状では極めて難しいのに…。



県議会では、



使用済みMOX燃料を処理する第二再処理工場は その計画地すら決まっていない！



原発でウランとプルトリウム混合のMOX燃料を燃やすプルサーマル運転は、当初の目標は2010年までに全国の16〜18基で実施する計画だったけど、現在、4基でほぼそと実施できているだけなのよね。

仏国のMOX燃料加工工場の品質劣化で生産量が激減して、MOX燃料の製造が追いつかない事情もあるけど、そもそも電力会社は燃料コストが10倍になり、炉も不安定にさせるプルサーマルなど本音ではやりたくないのよ。高浜原発でも認可された量を目いっぱい使っていないのよ。



プルサーマル運転後の使用済みMOX燃料の行き先はあるのかしら？

**初めから行き先のない
使用済みMOX燃料！**

発熱量の高い使用済みMOX燃料は、原発プールで百年近く冷やさなければならぬのよ。



使用済みMOX燃料には長寿命の核種が多く含まれ、これを再処理する施設もないから、高浜で永く貯蔵せざるを得なくなったわよね。



1998年にプルサーマル運転の許可を国に申請する際、関電は「使用済みMOX燃料の搬出先は、国が再処理方法などの方針を2010年までに決める」と約束していたようね。

その第二再処理工場は、いつどこにできるかの青写真すらいまだにないのよ。使用済みMOX燃料を再処理する第二再処理工場の建設・稼働など夢のまた夢、おとぎ話にすぎないわ。



高浜原発の老朽プールから放射能を含む冷却水が漏れ出る心配。地震などで冷却水が抜ければ、崩壊熱でセシウムやヨウ素などの揮発性核種が大量に放出されるわ。今後、周辺の住民はその危険と隣り合わせで暮らさなければならなくなったのよ。



ところで、「核燃料

(プルトニウム) サイク

ル」の主役はあくまでも高速増殖炉で、プルサーマルはつなぎ役にすぎないのよね。

福島原発事故の前年、

福井県庁を訪れた近藤俊

介原子力委員長は、



「2060年に高速増殖炉を実用化
するとしている国の原子力政策大綱
の実現など誰も考えていない」と本
音を漏らしたわ。プルサーマルはつ
なぎ役にもなりえないし、この先も
「核燃料サイクル」に実現性はない
ということなのよ。(14頁を参照)

朝日新聞 2010年6月17日

2050年の高速増殖炉実用化

A 2010
6/17

原子力委員長、困難視

1997年12月県議会でのプルサーマルをめぐる論議

関孝治県議『地域振興策が示されなければ反対すべき』

栗田知事『正直言って地域振興を考える段階にはない』

山本文雄県議『原発を新幹線の駆け引き材料に、総理に直訴する考えはないか』

栗田知事『新幹線のために、原発問題を進めるのは問題』

当時、三重県議会は原発立地を凍結する決議をしています。原発を地域振興との取引材料に使おうと、それを露骨に口にする県議がいるのには絶句するしかありません。この時点で栗田知事は、プルサーマル計画については議論の積み重ねが必要で、急ぐ考えはない。使用済み燃料対策を優先させる。国の日程に合わせるつもりはない、と慎重な姿勢を崩しませんでした。



結局、若狭の原発サイ

ト内にある使用済み核

燃料四千数百トの大半は

再処理できないまま「核のゴミ(高

レベル廃棄物)」になる運命という

ことね。でも、関電は、県外での中

間貯蔵施設を2030年ごろに操業

開始すると県に約束しているわよ。

上関町の「中間貯蔵

施設誘致計画」のこと

ね。だけど、再処理の

行き詰まりが誰の眼にも見えてきた

今、上関での「永久貯蔵」も見えて

きて、世論は受入れ拒否に傾いてる

わ。



周辺の田布施町議会も3月21日に
反対決議し、山口県知事も「負担と
して非常に過大」だとしていて、同
意は難しいと思うわ。

『プール貯蔵より乾式貯蔵の方が安全』は、ダマシの手口！



原発敷地内での乾式貯蔵の安全性について、福

井県の原子力安全専門委は、安全と評価しているわ。

熔融事故を起こす危険

はほとんどないわ。でも、



高い放射線は出続けているのよ。乾式容器は、プールのように放射線を遮蔽できず、キャスクの近くでは1時間で公衆の被ばく線量限度1ミリシーベルト/年を超えてしまうわ。原子力規制委員会でも40年後には漏洩のためキャスクを移動できなくな

ることを心配していたほどよ。

規制委員長の懸念

原子力規制委員会の更田前委員長は2020年に、むつ市の「中間貯蔵施設」について「恐れるのは、使用済み核燃料を運び出す先がない状態で、燃料容器の耐用年数（50～60年）に近づく事態だ」と貯蔵長期化の懸念を示した。この懸念のように、乾式キャスクの耐用年数（設計貯蔵期間）は40～60年で、数十年後には、金属ガasketなどのシール部やレジンなどの中性子遮へい材が劣化し、人が近づくと被ばくする事態となり、その後の移動も保管作業も困難になるのだ。



いる県議も多いわよ。

プール貯蔵より、乾式貯蔵の方が安全と信じて

中間貯蔵によりプール水喪失事故の危険が高どまり！



多くの人が誤解していることだけど、プールで10年も冷却すれば、冷却水喪失による使用済み核燃料の熔融事故の危険はほとんどなくなるわ。そのままプールに入れておけばいいことよ。

関電は「乾式貯蔵の方が安全」と言うけど、それはダマシの手口よ。

プール水の喪失による燃料熔融事故を心配する人は、原発が運転を続け、13カ月ごとに燃料が交換され、プールにたえずホットな使用済み核燃料が入っている状況をこそ心配すべきなのよ。



米国の原発では、70年代から乾式貯蔵を進めてきたそうね。

米国の乾式容器は 長期保管専用で内陸貯蔵用

米国は、70年代にシムス・

カーター大統領が、プルトニウム増殖利用の路線を放棄したのよ。



高速増殖炉も再処理工場もやめ、

軽水炉の使用済み核燃料は、当面、

原発敷地内で保管することになった。

ほとんどの原発は内陸にあり、潮風で劣化することもないから、分厚いコンクリート遮蔽の容器が使われているわ。

それに比べ日本の乾式容器は貯蔵・輸送兼用で小型軽量薄型。放射線の

遮蔽力が弱いので、遮蔽用の建屋や

設備がいるし、遮蔽体のレジン（エ

ポキシ樹脂）は、中性子線照射によっ

て消耗し、50年先には「金属ガス

ケットの健全性の問題が生ずる」

「燃料棒の内圧により被覆管が破損

する可能性」があるのよ。

関電の担当者も「容器の設計上、

60年以上は置けない」と高浜町議

会で回答しているわ。（2024年3

月14日 朝日新聞）



福井の政治家たちは、

原発の問題で、いつも

「地域振興」との取引を習わしにし

てきたけど、千年先、万年先まで放

射能ゴミの影響を受ける子孫たちへ

どう言い訳するつもりかしら？

ところで関電は2013年から、

使用済み核燃料の中間貯蔵施設の受

け入れ要請を210の自治体に行い、

すべて断られたそうね。

高浜原発に隣接する

京都府宮津市は、ふる

さを守る条例の理念

にそぐわぬものとして中間貯蔵施設

の受け入れを拒否したのよ。



当時の宮津市は、深刻な財政難に

あり、2019年度のへ将来負担比

率Ⅴは夕張市に次ぐ全国ワースト

2位だったのよ。でも、中間貯蔵

受け入れにともなう電源三法交付金

などの金銭的誘惑にも感わされず、

毅然として使用済み核燃料の中間貯

蔵を拒否したのよ。

西川前知事『中間貯蔵は管理、監視が中心の仕事。雇用効果はない』

西川前知事は2015

年、後援会長である川田



達男福井商工会々頭の「(敷地内)

貯蔵を貯蔵ビジネスと意識転換すべ

し」の意見にも「**中間貯蔵は管理、**

監視が中心の仕事。雇用効果はない

と、それをはねつけたのよ。



杉本知事が敷地内貯

蔵を認めれば、それは、

「若狭を核のゴミの墓場

にしない」という栗田(元)知事以

来の県方針の大転換で、県民の願

いにもそむくことになるわね。

とくに一時の金(地域振興)をあ

てにして、未来世代の危険に思いを

めぐらせない政治は、時代錯誤よね。

チェルノブイリ事故

の前年の1985年の

県議会で山本順一県議(自民党)

は、「知事は15基もの原発を受

け入れたが、住民の所得増大に

は結びつかなかった。」と追及

中川知事は、「期待したように

はいかなかった」と脱帽してい



1985年10月3日 朝日新聞(県版)

美浜町は1990年に原発は

「恒久的・総合的・広域的振興

には結びついていない」と報告

福井県も1994年に「原発15

基を誘致したが、恒久的福祉の

実現にはほど遠い」「一時的な財

政面の恩恵より、新たな恒久的な地

域活性化のあり方が求められている

と総括しているのよ。

さらに2010年にも福井県

立大学経済研究所が「関電の利

益は大部分が県外に流出し、原

発の県経済に対する直接的なメ

リットは、見かけの大きさほど

は大きくない」と報告している

わ。



人口減少は全国共通の

問題だけど、とくに原発

のある町での若年層の減少が深刻な

ようね。

おい町が、町内13
団体からアンケート調
査を行なったところ、



「産業の育成や企業誘致による雇
用の創出」「新規就業者の受け入れ等
による産業振興」など、仕事につな
がる産業や雇用の創出に力を注ぐべ
きと考える割合が高かったそうよ。

(令和2年 おおい町人口レシジョン改訂版)

ここに興味深いデータがあるわ。
1965年から2020年の55年間
の、県内町村全体の人口のピークは
1999年よ。

しかし、美浜町、おい町、高浜
町は、年平均20億円前後の電源三法
交付金が交付され、原発関連税収が
予算に占める割合も莫大であったに
もかわらず、原発を持たぬ町村よ
り5〜13年も早くから人口減少が進

んでいるのよ。

55年間の減少率(最大人口÷最少
人口)は町村平均の13%に対し、美
浜町31%、おい町24%、高浜町18
%と突出しているわ。お金がたくさ
んあるからといって、町が「豊か」
になったとは言いい切れないのよ。



潤沢な財政でなぜ？

その答えはこれま
でいくつも指摘されて
きているけど、例えば



次の新聞記事の見出し「原発交付金
が自立を阻害」は象徴的ね。

「原発交付金が自立阻害」

豊かな町で若者流出

(1998年・朝日県版)

市民出前講座 少人数で講師派遣します

核のゴミと福井の未来を考えよう!

プロジェクターを使ったわかりやすいお話です

連絡先: 福井県越前市 山崎方 Tel: 090-6271-8771



参考図書: 「再稼働の前に考えよう使用済み核燃料」長沢啓行講演録 ¥500

「なぜ、原発で若狭の振興は失敗したのか」 白馬社 山崎隆敏 ¥935

再処理工場による放射能汚染の現実

私たちは若狭・福井だけが核汚染から免れればよいなどとは考えて



いないわ。青森で再処理工場が稼働することになったときの、彼の地を襲う核汚染をとて心配しているわ。

再処理工場は、原発とは比べものにならない大量の放射能を海と空に日常的に放出するのよ。英仏ではこれまで日本の使用済み核燃料を再処理していたのよ。

仏国の再処理工場での汚染

仏のラ・アーク再処理工場周辺では、トリチウムが一般環境の700倍、セシウム137が約150倍と、極めて高レベルで検出され、一般環

境では検出されないコバルト60などの放射性物質も検出されているわ。

保健所や開業医らが、工場の35キロ以内（人口約90万人）の25歳未満の住民を対象に白血病調査を実施。10キロ以内では、国内平均で予想される発症数1・4人に対し、2・8倍の4人だったと報告されているのよ。



（毎日新聞1996年8月4日）

英国の再処理工場でも

英国セラフィールズ再処理工場の近くの村では、25年間に11人の子供が、

白血病、骨髄ガンで死亡しているとの医師の証言もあるのよ。

（毎日新聞1984年7月23日）

六ヶ所再処理工場でも

六ヶ所再処理工場でも、2006年からの試験運転で、ヨウ素129その他の核種を海と空に放出しているのよ。福井新聞は、試験運転でプルトリウムなどの放射性物質が漏れたことを伝えているわ。

（福井新聞2006年4月13日）





原発は「クリーン」エネ
ルギーと宣伝されるけど、
百万Kwの原発で年に広島
型原発千発分の死の灰が生まれるそ
うね。

使用済み核燃料には、

半減期が二万四千年



(自然消滅までに二十四万年)の、
自然界には存在しない超猛毒のプ
ルトニウムも含まれているわ。プルト
ニウム8kgで長崎型原発を一個つく
れるのよ。それを日本は、約45tも
保有しているのよ。



プルトニウムは1gで
日本人全体の許容量に
なるそうね。たった1gで四百万人
を肺ガンにするともいわれる超猛毒
物質なのよね。

1ミクロンのプルトニ

ウム微粒子(タバコの煙

り一粒大)が肺の中に入

れば、そのアルファ線によって、確

実に気管支ガンや肺ガンが引き起こ

されるのよ。



「余分なプルトニウ
ムは持たない」という

国際的な約束があるのに、なんで再
処理をやめないのかしら？

21年前に、核燃中止を

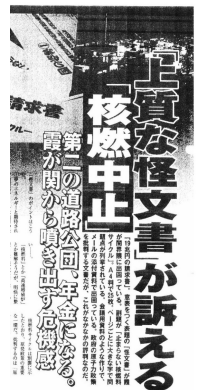
訴える「上質な怪文書」



が霞が関界隈に巡回したこと知って
る？



経産省の数人の若手官僚が関わっ
たものらしいけど、核燃(プルトニ
ウムリサイクル)をやめられない理
由を次のように書いているわ。



① 行政の無謬性へのこだわり

「今まで核燃サイクルを推進して
きたことが時代遅れとなったという
政策の誤りを認められない」(今更
やめるといえば、使用済み燃料が持
ち出せなくなり原発が止まる)

② 国と電力業界の原子力利権を巡
る政界、官界、業界、自治体のたか
りの構図

③ 既得権への固執

そして、政策的意義を失った19兆
円(果ては50兆円)ものお金が国民
の負担に転嫁されようとしている・・・。

(2004年5月 週刊朝日)

歴代知事は、「敷地内貯蔵」を認めませんでした！！



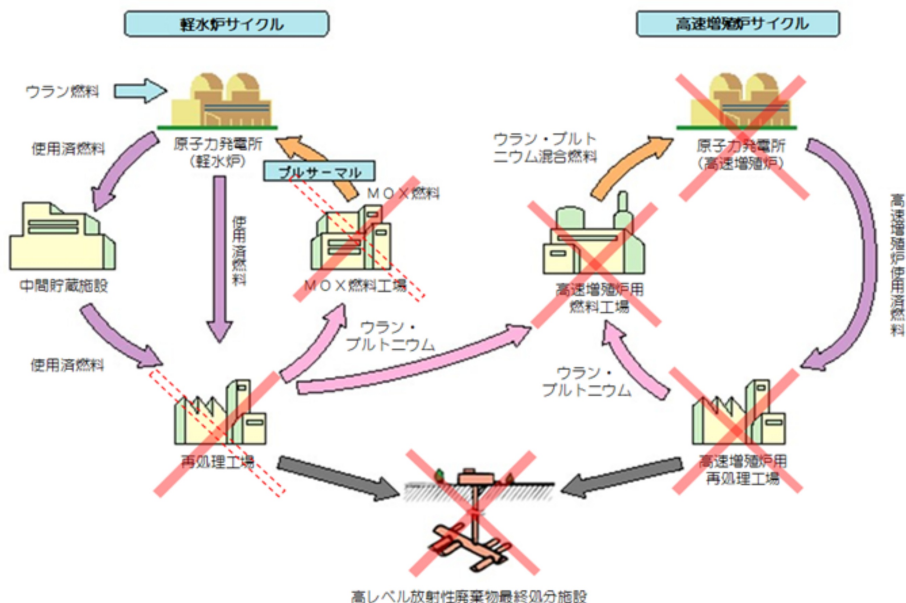
栗田（元）知事も西川（前）知事も、使用済み核燃料の敷地内の貯蔵を認めなかったわ。それは、「核燃サイクル」が破綻した現状で敷地内貯蔵を認めれば、若狭が核のゴミ捨て場になると理解されていたからよ。

敷地内貯蔵の容認は、県原子力行政の大転換となり、若狭を核のゴミの墓場にしないでという県民多数の願いにもそむくことになるわ。

「核燃料サイクル」破綻——将棋なら、すでに「詰んだ」状態

「軽水炉サイクル」と「高速増殖炉サイクル」の両輪がつながらぬものを「核燃料サイクル(プルトニウムリサイクル)」とは呼べません。

核燃料サイクル概念図(出典:資源エネルギー庁の原図に×印を加筆)





絶滅危惧種 コウノトリ

責任編集:核のゴミと福井の未来を考える会

監修:大阪府立大学名誉教授 長沢啓行（若狭ネット資料室長）

協力:サヨナラ原発福井ネットワーク

* このパンフを回覧してね ⇒



連絡先: 福井県越前市 山崎方 Tel: 090-6271-8771